

## 令和4年度九州地方における侵入監視等調査の結果

### 1. 業務目的

本業務は、ツマアカスズメバチの定着が確認されている韓国釜山や、長崎県対馬市から船舶の往来がある九州各港湾において地方自治体を実施する侵入状況調査を支援することを目的とした。

### 2. 業務項目

本業務の実施項目は、以下のとおりである。

- ペットボトルトラップ捕獲物の点検
- ツマアカスズメバチ疑いに関する問い合わせの対応

### 3. 調査概要

#### (1) ペットボトルトラップ捕獲物の点検

地方自治体を実施した15港湾での侵入状況調査の捕獲物について、ツマアカスズメバチの混入状況を点検した。



図 3-1 侵入状況調査実施港湾



図 3-2 侵入状況調査実施箇所（北九州港）

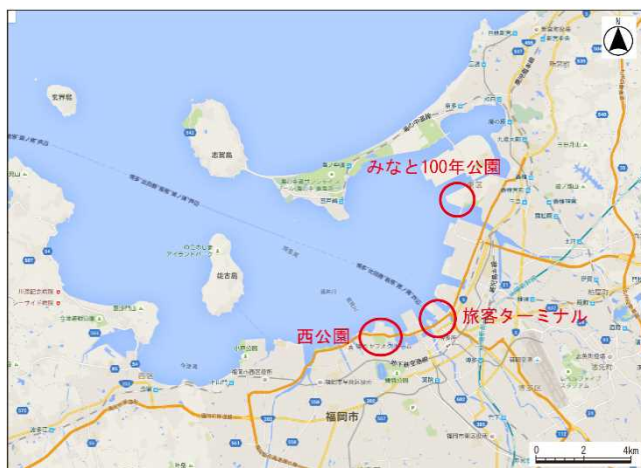


図 3-3 侵入状況調査実施箇所（博多港）



図 3-4 侵入状況調査実施箇所（三池港）



図 3-5 侵入状況調査実施箇所（伊万里港）



図 3-6 侵入状況調査実施箇所（長崎港）



図 3-7 侵入状況調査実施箇所（熊本港）





図 3-8 侵入状況調査実施箇所（八代港）



図 3-9 侵入状況調査実施箇所（天草港）



図 3-10 侵入状況調査実施箇所（細島港）

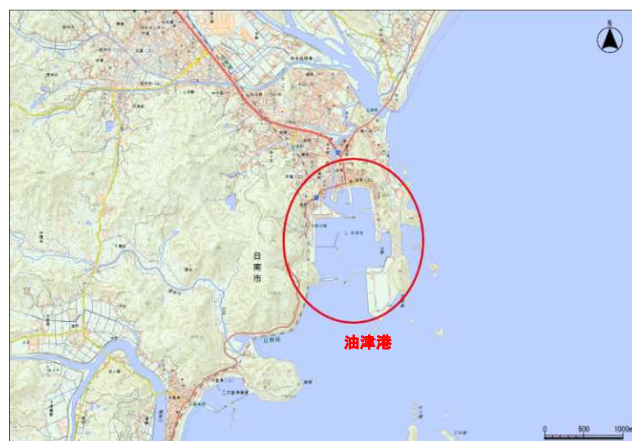


図 3-11 侵入状況調査実施箇所（油津港）



図 3-12 侵入状況調査実施箇所（川内港）



図 3-13 侵入状況調査実施箇所（志布志港）



図 3-14 侵入状況調査実施箇所（大分港）



図 3-15 侵入状況調査実施箇所（芦辺港）



図 3-16 侵入状況調査実施箇所（郷ノ浦港）

## (2) ツマアカスズメバチ疑いに関する問い合わせの対応

九州地方環境事務所にツマアカスズメバチ疑いのある個体又は巣の問合せがあった場合、ツマアカスズメバチである可能性についての判定を行った。

#### 4. 調査日

調査は、以下の日程で実施した。

表 4-1 調査実施日

項目	調査実施日	
ペットボトルトラップ捕獲物の点検	夏季	令和4年6月15日～7月29日
	秋季	令和4年10月18日～12月7日

#### 5. 調査結果

##### (1) ペットボトルトラップ捕獲物の点検

捕獲物についてツマアカスズメバチの混入状況を点検した結果、表5-1に示すとおり、ツマアカスズメバチは確認されなかった。その他のスズメバチ類として、スズメバチ属5種、クロスズメバチ属1種、アシナガバチ亜科2種、合計8種を確認した。捕獲個体は、合計635個体であった。

表 5-1 港湾別トラップ調査結果

種名	調査港湾															合計	
	北九州港	博多港	三池港	伊万里港	長崎港	熊本港	八代港	天草港	細島港	油津港	川内港	志布志港	大分港	芦辺港	郷ノ浦港		
セグロアシナガバチ	0	0	0	1	1	21	0	1	0	0	1	0	0	2	0	27	
キアシナガバチ	0	0	0	3	0	12	1	0	0	0	2	3	0	1	0	22	
コガタスズメバチ	1	2	5	4	1	19	7	10	21	2	24	27	1	90	16	230	
モンスズメバチ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2	
ヒメスズメバチ	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	5	
オオスズメバチ	1	57	1	28	78	2	1	2	7	3	58	2	4	32	53	327	
キイロスズメバチ	0	1	2	0	7	0	0	0	2	1	1	0	0	1	1	15	
クロスズメバチ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	4	
	8	2	60	8	36	87	54	10	14	33	7	87	32	6	126	73	635

(2) ツマアカスズメバチ疑いに関する問い合わせの対応

九州地方環境事務所へのツマアカスズメバチ疑いに関する問い合わせは、表5-2に示すとおり6件であった。これらの問い合わせ先から送付された写真やサンプルをもとにツマアカスズメバチ疑いのある巣および個体を解析した結果、いずれもツマアカスズメバチではないあるいはツマアカスズメバチである可能性は低いと判定した。

表5-2 ツマアカスズメバチ疑いに関する問い合わせ状況

	問い合わせ先	問い合わせ日時	問い合わせ内容	判定結果
1	福岡市	令和4年8月3日	市民よりハチの成体と巣の写真が送付された。	成体の特徴からコアシナガバチと判定。
2	和歌山県	令和4年8月3日	近畿地方環境事務所経由で和歌山県よりハチの巣（破損）、幼虫、蛹の写真が送付された。	コガタスズメバチの可能性が高い。蛹や幼虫からの判別は困難であるが、蛹の隊長が25～30mmとかなり大型であるため、ツマアカスズメバチの可能性は低いと考えられる。
3	壱岐市	令和4年8月8日	過去ツマアカスズメバチの営巣が確認された地域の住民からツマアカスズメバチの疑いのある個体が提供されたと連絡があった。	送付された個体を同定した結果、コガタスズメバチと判定。
4	一般の方	令和4年8月26日	九州地方環境事務所にスズメバチ類の写真が送付された。	送付された写真から、キイロスズメバチの可能性が高いと判定。
5	熊本県宇城市役所	令和4年10月6日	熊本県経由で市役所より、住民から見慣れないスズメバチが飛翔しているとの情報があり、写真が送付された。	巣の形状、色味からキイロスズメバチの可能性が高いと判定。
6	福岡県篠栗町役場	令和4年10月13日	住民よりツマアカスズメバチの巣ではないかとの連絡があり、写真が送付された。	巣穴の位置からコガタスズメバチの可能性が高いと判定（ツマアカスズメバチの巣であれば上方に開く傾向がある）。



## 6. 考察

地方自治体の協力のもと実施した港湾等での侵入状況調査において、ツマアカスズメバチの個体は確認されなかった。しかし平成28年度の港湾周辺におけるトラップを用いた生息状況調査において、宮崎県日南市の油津港で本種1個体が確認されている。また、本種の国内定着地である対馬市との航路がある壱岐市では平成29年に営巣が確認されている。さらに九州以外では令和元年11月に三田尻中関港のある山口県防府市において、港湾周辺で営巣及び個体が確認されている。これらの場所ではその後の捕獲調査で個体、営巣ともに確認されていないが、これまでツマアカスズメバチが確認された場所は、本種が生息する地域と国際航路がある港湾周辺であることから、港湾やその周辺は侵入リスクが高い地域であると考えられる。

また、平成27年8月に北九州市で、平成30年10月には大分市内で本種の営巣が確認されている。さらに令和4年5月には、福岡県福岡市および糟屋郡久山町で複数の個体が確認され、営巣も確認されている。これらの確認場所は、港湾地区から離れた場所であった。侵入個体が単独で移動した可能性も考えられるが、本種が紛れ込んだ積荷が、二次的に車両や鉄道によって他の場所へ搬出された後、飛び立って営巣を開始した可能性が考えられる。

これらのことから、本種の生息地域からの船舶に対しては、船内への個体侵入がないか確認を行い、積荷に対しては出荷、移動の際に十分な監視を行うことや、侵入の可能性を予想して、コンテナターミナル内での防除（トラップによる捕殺等）を定期的実施することが本種の拡散の予防に繋がると考えられる。